

討論参加は 10 名のみ
見学も歓迎です

Workshop: Let's ENJOY debate in English ♪ (第 1 回)

国際的な学会で、ミーティングで、存在感を発揮しよう
企画：国際化・創薬委員会

伝えたいこと、考えていることがたくさんあるのに、国際的な場ではなかなか発言できない、真意が伝えられない...、そんな悩みはありませんか？

解決への近道として、エキスパートの先生方とともに、英語でのディスカッションを楽しみながら練習するワークショップを企画しました。第 1 回は多発性硬化症をテーマにディスカッションします。

Discussant は 10 名のみので狭き門です。奮ってご応募ください！

- ・日時・場所：2018 年 11 月 23 日 17:25 ~ 18:10、第 7 会場 (9-A)
- ・ファシリテーター：
中島 一郎先生 (東北医科薬科大学医学部 老年神経内科学)
中原 仁先生 (慶応義塾大学医学部 神経内科)
- ・募集人数：Discussant 10 名
応募資格「国際的な場で学術的に活躍したい！」医師は誰でも (年齢・英語力制限なし)

ご参加を希望される方は、第 36 回 日本神経治療学会ホームページの参加フォームへのご入力をお願いします。募集期間は 2018 年 9 月 10 日 10 時~10 月 26 日 10 時までです。応募者多数の場合は、①若手優先、②申し込み順優先の原則で 10 名を選定します。バーチャルなディスカッションになります。Pros 側・Cons 側は、ご希望を伺った上で、英語経験等を考慮し、企画者が振り分けさせていただきます。ご了承ください。結果については、11 月初旬頃、ご連絡を差し上げます。



<フォーム URL><https://procom-i.jp/jsnt2018discussant/index.html>

- ・見学大歓迎：見学だけのご参加も可能です。来年以降参加したい、英語での討論を見たいなどなど、皆様のニーズに合わせて、是非お集まりください (**事前登録不要**)
- ・テーマ：Should MS diagnostic criteria be more sensitive or more specific?

以下の内容について討論します。多発性硬化症の診断基準の感度をより高くすることにより、さらに早期診断が可能になり、その結果、早期に治療を開始し長期的な予後が改善されることが期待される。それゆえ、今後さらに診断感度を高める改訂をするべきだとの意見がある。一方、診断感度を上げるために単純化された基準では誤診が増え、その代償は極めて大きい。したがって、診断の特異度を高めるべきであるという主張もある。診断感度または特異度のいずれをより重視すべきか、Pros 側 (感度重視) と Cons 側 (特異度重視) に分かれて、ディスカッションを行う。

タイムテーブル

1.	Pros 側のプレゼンテーション (2 人、5 分ずつ) : エビデンス・経験
2.	質疑応答 (Cons 側の 5 人から 1 問ずつ+聴衆からの質問、5 分)
3.	Cons 側のプレゼンテーション (2 人、5 分ずつ) : エビデンス、経験
4.	質疑応答 (Pros 側の 5 人から 1 問ずつ+聴衆からの質問、5 分)
5.	グループワーク (7 分)
6.	Cons 側の反駁 (1 人) 4 分 : Pros の根拠の否定を中心に
7.	Pros 側の反駁 (1 人) 4 分 : Cons の根拠の否定を中心に
8.	Judge